

# 【十和田市】 農山漁村の「地域経営」取組事例

## 十和田市地域農業再生協議会等の取組

十和田市の農業は、水稻・野菜・畜産を組み合わせた個別複合経営が多いのが特徴です。課題としては、高齢化と後継者不足による労働力の減少、不安定な野菜価格が挙げられます。

十和田市地域農業再生協議会等では、担い手の育成・確保のほか、地域農業の振興、農地の利用集積等について取り組んでいます。

### 1 地域マネジメント部会の開催

令和3年8月に弘前大学大学院の平井太郎教授をお招きし、地域の「担い手確保・育成」をテーマに意見交換しました。また、令和元年度に地域貢献型経営体レベルアップ事業を実施した経営体から取組内容の報告がありました。

### 2 地域の担い手を対象とした研修

令和3年11月に八戸市の「八戸ワイナリー」と「南郷そば振興センター」を訪れ、地域ぐるみで生産振興している作物の加工施設を視察し、6次産業化・地域振興等について研修しました。

同月、「人口減少、高齢化社会における今後の農業の展望」をテーマに新潟食料農業大学の青山浩子講師による講演会をリモートで開催し、農業経営の方向性について研修しました。



(視察研修会の様子)



(リモート講演会の様子)

### 3 共助共存の農山漁村モデル集落の育成

共助共存のモデル集落として選定された一本松集落において、集落住民によるワークショップを毎月開催し、集落の現状把握や課題について話し合いを行いました。

令和3年12月には高地豊人税理士をお招きし、一本松集落の農業者を対象に集落営農法人設立に関する研修会を開催し、法人による農業経営の知識を深めました。